

金沢大学 クラブム報紙

Acanthus News

## 月刊 アカサス ニュース

第27号 1998(平成10年).9

8月号は夏休みのため休刊しました。

「アカサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアサミ」)です。

来たれ!金沢大学へ  
高校生を迎えて初の学部合同説明会

## トップニュース Top News



全体説明会で各学部の特色について説明を受ける高校生  
= 8月5日, 文・法・経済学部棟講義室で

8月5日, 角間キャンパスで, 高校生を対象とした初の学部合同の「金沢大学見学会」が開かれ, 全体説明会での各学部のPRの後, 角間キャンパスにある文・教育・法・経済・理学部の施設案内と入学試験等の説明が行われた。雨天にもかかわらず集まった約650人の高校生たちは, 実験の見学や特別講義の受講を体験した。

また, 7月31日には医学部保健学科で, 8月4日には工学部で, 同6日には薬学部で施設案内等が実施され, それぞれ教職員らがPRに汗を流した



水流の実験に興味深げに見つめる高校生  
= 8月4日, 工学部機能機械工学科A棟実験室で



大学院生からプラズマ実験の説明を受ける高校生  
= 8月5日, 理学部粒子ビーム実験棟前で



模擬授業「健康・発達実践論」の一幕  
= 7月31日, 医学部保健学科看護学教室で





## 巻頭言

### 情報ルネッサンスの到来



総合情報処理センター長  
石田 啓  
(工学部教授)

パソコン端末からインターネットを介して、全世界と瞬時に情報交換が可能になった現在を、情報ルネッサンスの到来と称する向きがある。20世紀を「エネルギーの時代」と見るならば、21世紀は「情報通信の世紀」になるとの予見である。

このような科学文明の変化は、特に計算機に代表される電子機器の発達によるものである。パスカルが一夜の歯痛を忘れんとして考案した歯車式計算機は、真空管からトランジスタを経て集積回路型へとマイクロ化し、今日のパソコンや汎用大型計算機に成長したが、その利用は、高速数値解析や一般情報通信処理はもとより、パソコンゲームや電子美術館などの仮想現実世界の創出、コンピューターチェスなどに始まった人工知能の開発、音楽や画像などの芸術・技術の電子化、といった驚異的な技術革新を引き起こしたのである。

未来の人々は、老化する肉体をサイボーグ化し、貧弱な創造力を人工知能に頼り、かなわぬ夢を仮想現実世界で満足するようになることが予想されるが、パソコンのブラウン管に束縛され、情報洪水に翻弄されるならば、抑圧からの魂の開放というルネッサンスの精神に逆行し、真の心の満足は得られないであろう。

果たして新世紀はバラ色であろうか？ エネルギー不足や地球環境破壊などの地球的問題や国際紛争には切迫感は感じ難いとしても、経済不況や少子化による大学淘汰の問題は切実である。これらの問題解決に際し、重要な役割を果たすハードの一つが情報通信機器であり、またその有効利用のためには、人間の精神(ソフト)の向上が必要不可欠である。大学の使命は、この様なソフトとハードの両者の向上を目指すところに存在する。

## “ 将来の金沢大学に望むもの ” をテーマに2050年の夢語る 「キャンパス2050」に関する懇談会を実施

50年後のキャンパス構想を策定する「キャンパス2050検討グループ会議」(座長：宮下孝晴教育学部教授)は、7月1日、市内のホテルで、地域の住民・企業・高等学校の代表者や留学生、大学院生など計8名を招いて懇談会を開いた。懇談では「街から離れている分、街との調和・連携が大事」、「人間的な付き合いのできる環境が欲しい」など、貴重な意見が多く出され、同グループ会議では今後、これらの意見を取り入れながら、更に検討を進めることとしている。



座長の宮下教授(教育学部)  
= 7月1日、シティモンドホテルで



意見を述べる中国からの留学生羅 天軍さん  
= 同左



## 「埋蔵文化財調査センター」の開所式を行う



センターの看板を掲げる岡田学長(中央)ほか  
=7月1日、埋蔵文化財調査センター前で

7月1日、角間キャンパスで埋蔵文化財調査センターの開所式が行われ、岡田晃学長、佐々木達夫センター長、中村厚生事務局長など、関係者約40人が開所を祝った。同センターは、総合移転第 期計画事業(角間地区)と附属病院病棟再開発(宝町地区)を円滑に進めるために平成9年6月27日に設置され、このたび建物が完成した。センターの活動により、角間地区からは平安時代の寺院跡などが、宝町地区からは近世武家屋敷の遺構や遺物などが見つかった。



センター教官から出土品について説明を受ける出席者  
=同左、同センター内で

## マレーシアとタイで“1998年日本留学フェア”

6月30日から7月5日にかけて、マレーシアとタイで順次「日本留学フェア」〔主催:(財)日本国際教育協会〕が開かれ、日本の国公立大学62校約130人の教職員が現地に出た。

本学からは、大橋信喜美・留学生センター長、津幡広昌・国際交流課専門員、山下欽也・留学生課専門職員が参加し、本学のブースを訪れた約200人の留学希望者の質問に熱心に答えた。また、大学関係者間での交流も活発に行われ、本学もマレーシアのマラヤ大学関係者と積極的な接触を図るなど大学間交流の推進に取り組んだ。



訪れた留学希望者の相談にこたえる本学関係者  
=7月4日、ヒルトン国際ホテル(タイ(バンコク))で



## 社会教育主事講習を行う

7月21日から8月26日にかけて、大学教育開放センターで、平成10年度社会教育主事講習が行われ、計74名が受講した。この講習は文部省の委嘱事業として行われているもので、社会教育主事となるために必要な専門的知識・技能を修得しようと、毎年北陸3県及び岐阜県から多くの受講生が参加している。



岡田晃学長による特別講演「人間と環境」  
= 8月26日、大学教育開放センターで



開講式で“ちかいの言葉”を述べる受講生代表の矢後英子さん  
= 7月21日、同左

## 海外留学希望学生を対象に “留学説明会”を開催

7月30日、海外留学希望者の期待にこたえるため、留学説明会が開催され、文系学部を中心とした41人の学生及び教職員が参加した。同説明会では、本学が新たに刊行した「金沢大学留学ハンドブック」に沿って派遣留学プログラムなどの概要が説明されたほか、留学経験者の体験談や国費による派遣留学についてのアドバイスなどが行われた。



熱心に聞き入る海外留学希望学生  
= 7月30日、文・法・経済学部講義室で

「金沢大学留学ハンドブック」

## 新たに2校と 大学間交流協定を締結

8月5日、岡田晃学長は、ニューヨーク州立大学ニューボルトツ校とオーストラリア国立大学の2校との大学間交流協定の協定書に署名した。これにより、大学間交流協定校は15校となった。

ニューヨーク州立大学ニューボルトツ校については6ページの「紹介」欄で別途紹介



協定書にサインする岡田学長  
= 8月5日、学長室で



## 「アジアは一つか？」をテーマに “1998アジアフォーラム in 石川”が開かれる

(財)日航財団などが主催し、本学などが特別協力する“1998アジアフォーラム in 石川”が8月18・19日の両日、石川県青年会館などを会場に開催され、アジア各国からの招へい学生や日本人学生など総勢約250人がシンポジウムや討論会に参加した。同フォーラムでは、将来のアジアを背負う若者たちが、政治・経済・文化の諸問題などの議論を通じ、国際感覚を養い、友情の輪を広げた。



アジア各国から多くの学生が参加した会議の様様  
= 8月19日、石川県青年会館で

### 7～8月の研修スナップ

#### 第19回(平成10年度)北陸地区国立 学校等監督者研修

期 日：7月21日～24日

受講者：新任の係長・専門職員 19名

場 所：事務局大会議室及び辰口共同研修センター



班に分かれて行った「事例研究」の様子  
= 7月24日、辰口共同研修センターで

#### 東海・北陸地区国立学校事務情報化担当 職員研修〔パソコン指導者養成コース〕

期 日：7月28日～31日

受講者：情報担当部門の職員でパソコン操作・管理の中核的立場にあるもの 30名

場 所：辰口共同研修センター



パソコン研修の企画案を発表する受講者  
= 7月30日、辰口共同研修センターで

#### 本学へのお客さま(7～8月)



特別講義で来学し、学長を表敬した女優の真野響子さん  
(写真左から三人目)ほか  
= 7月7日、学長室で



フランス大使館科学技術部のアンリ・アンジェリーノ  
科学技術参事官(右から二人目)とフィリップ・ペレーズ  
同担当官(右端)  
= 8月5日、学長室で



## 長野勇教授（工学部） 宇宙探査で二つの快挙

本学の長野勇教授（工学部電気・情報工学科）は、このほど、日本のジオテール衛星のプラズマ波動チームの一員として活躍した功績が認められ、NASA（アメリカ航空宇宙局）長官からグループ業績賞（Group Achievement Award）が与えられた。



グループ業績賞の賞状を手にする長野教授  
= 8月4日、工学部研究室で

また、同教授は7月4日に打ち上げられた火星探査機「のぞみ」に積み込まれた「低周波プラズマ波動観測装置」の共同開発も担当した。

同教授のこれらの功績は、我々に“宇宙”というものを身近に感じさせてくれた。



長野教授の波動観測装置の開発成功を伝える  
北陸中日新聞（7月14日朝刊）



## 国際交流協定締結大学（その12）

ニューヨーク州立大学ニューボルトツ校  
（アメリカ合衆国）  
〔1998.8.5協定締結〕

ニューヨーク州立大学ニューボルトツ校は、本学にとって最も新しい大学間交流協定校である。本学教育学部が四半世紀にわたって培ってきた交流が実った協定締結となったものである。教育学部は、平成6年（1994年）10月に、同校との間で姉妹校提携の協定を取り交わしている。

同校は、教員養成大学として1828年に創設され、その後、ニューヨーク州立大学への統合を経て、教養部のほか教育、美術・舞台芸術、工学・経営の3学部・大学院を持つ大学である。

学部学生約6,000人、大学院学生約1,600人に対し、常勤教職員約800人を擁している。

キャンパスは、ニューヨーク州マンハッタンを流れるハドソン川沿いにあり、学生たちは風光明媚な環境の下でゆったりと勉学に励んでいる。



ニューボルトツ校  
スマイリーアート・ビルディング（左）とマッケンナ・シアター（右）



## 新任部局長の紹介

平成10年8月1日付けで、中村信一教授が医学部長に就任した。



なかむらしんいち  
**中村信一 教授**

生年月日：昭19.1.5

任期：平成10.8.1～12.7.31

所属：微生物学講座

## 訃報

7月、現職お一人がお亡くなりになりました。ここに御報告するとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。



あずま ただつ  
**東 忠勝 氏**  
(医学部附属病院医事課  
専門職員(医療事務担当))

7月19日逝去  
享年49歳



## 金沢大学創立50周年 記念事業の準備進む 募金に御協力を!

金沢大学創立50周年記念事業のうち国際シンポジウムについては、このほどポスターが完成し、各方面で貼り出された。シンポジウムは、「地球・水・人間」をメインテーマとして来年5月30日から6月1日までの3日間、金沢市文化ホールで開催される。

創立50周年記念事業を成功させるため、同事業後援会では、目標額(3億円)の達成を目指して、引き続き教職員をはじめ関係各位に募金の協力を呼び掛けている。

一方、写真集「金沢大学 写真で見る50年の歩み」(1冊5,000円)については、9月30日まで予約を受け付けている。



国際シンポジウムポスター



写真集発行案内チラシ

## 編集後記

今年の夏の気象は異常であった。梅雨明け宣言がされないほどの天候不順で、いつの間にか秋に突入したように思う。

人影が少なかったキャンパスも本号が発行される頃には、夏休みを終えた学生が戻りはじめ、にぎわうことだろう。

来年5月の創立50周年に向けて記念行事等の実施計画が着々と関係委員会で進められている。一方、これとは別に50年後のキャンパス構想の策定に向けて「キャンパス2050検討

グループ会議」も7月に学内外の代表者などを招いた懇談会を実施し、10月には市民シンポジウムを計画している。本号では、創立50周年記念事業のうち国際シンポジウムや写真集の発行についてお知らせしたが、これらの事業を成功裏に終わらせるためにも、後援会の募金活動に御協力願います。

(上梨)



## 暑さに負けず溝掃除

男子学生寮の「泉学寮」で、8月6日、寮長が先頭に調理師さんや寮生と協力して、溝掃除と草刈りを行った。暑い日差しを浴びて汗びっしょりの作業となった。ごみと草の量もさることながら、仕事の後の冷えたビールは相当出た模様。



伸びきった草を刈る寮生たち  
= 8月6日、泉学寮正面玄関横で

古典派経済学の創始者

アダム・スミス「哲学論文集」

## 初版本の寄贈に感謝状贈呈

7月29日、附属図書館に、故 松井春雄 元 法文学部助教授が所蔵していたアダム・スミスの「哲学論文集」(初版1795年刊1冊)や「道徳感情論」(8版1797年刊2冊)など3セット計5冊が夫人 湊子さんから寄贈され、これに対して橋本哲哉附属図書館長から感謝状が手渡された。附属図書館では、これらを貴重書として保存し、広く教育研究に役立てることにしている。



「哲学論文集」の寄贈を受ける橋本附属図書館長  
= 7月29日、附属図書館長室で

## THE DORAKU ③

太極拳

中国からの留学生である易 双勤先生に太極拳を教えてください。簡単そうで、動きがゆるやかなのは身体にも良いと、十数名で習っています。ところが、見るとするでは大違い。形が難しく、覚えるのも大変です(若い方はすぐ覚えるのですが...)。けれど、とても楽しいです。水・金曜日の昼休みに十全講堂の玄関ホールでやっています。

一緒にやりませんか?

小泉郁子(医学部)



このコーナーは、皆さんの趣味や熱中していることなどを紹介するコーナーです。写真や絵画に限らず、いろいろな作品や季節感あふれる話題などをお寄せください。いつでも撮影に出向きます。



平成10年9月18日発行

(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019

FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キューピーズ)」

(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。

本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。